鹿島	一	六〇、一一〇	六〇、一一〇	△	一四、八三〇
行方	三一〇	五一、三一〇	五一、五三〇	△	一五、八七六
稻敷	一	一六〇、九六〇	一六〇、九六〇	△	四五、三七一
新治	一	三三五、三四〇	三三五、三四〇	△	六一、九五三
筑波	一五〇	一八三、一一〇	一八三、二五〇	△	六三、三六九
眞壁	二八〇	一〇二、五四〇	一〇二、八二〇	△	七一、四五九
結城	一	一五三、七六〇	一五三、七六〇	△	一三、四四八
猿島	六〇〇	五五、八六〇	五六、四六〇	△	二五、三四七
北相馬	三〇	四五、九四〇	四六、〇〇〇	△	一五、六四五
合計	一、九五〇	一、二七、七三〇	一、二八、六九〇	△	五七〇、九七一

（備考）四捨五入十位に止めたので内譯と計と一致しない。△印は減を示す。

豌豆蠶豆は
減收を見る
品質數量低下

昭和十三年度に於けるエンドウ、及びソラマメの作付反別及び收穫高は

	作付反別	收穫高	價額
	町 反	石	圓
エンドウ	一五二・八	一、五五四	二四、七七一
ソラマメ	四三〇・〇	四、九八四	七一、八六一

であつて前年に對比し作付反別はソラマメが二町一反增加しエンドウは三十六町一反を減少し、收穫高はエンドウが九十一石、ソラマメが二千百六十一石を減少し、仍て價額は總体に於て一萬六百五十八圓の減少を見たが、是は主としてソラマメに於て收穫期に兩量が多かつた爲に品質不良で收量が少なかつたに基くものと思はれる。

暴風雨に惱まされた
統計事務視察の旅
縣下統計主任十二名の一行が
千葉縣から農林省へ

☆十月二十日　昨夜うつら〳〵聞いたラヂオ天氣豫報に何かしら不吉を覺える樣な變な豫感に襲はれつゝ、それでも毎日降つて居た雨だ、もう大丈夫だらうと一人定めの結果は持つて行けと言はれた洋傘を斷然置いて來たものだ。俺が出縣けるのに雨があるものかとは言つたものゝ水戸驛で池田屬に會ふとちやんと洋傘を用意して居る。御指示の通りの成田線廻り鴨川驛迄の廻遊切符を買はうとすると社線二線に跨るものは賣れんと言ふ、仕方なしに千葉迄買ふ。列車最後部が集合場所だ、水戸では山方の根本君と、大子の皆吉氏が乘り込む豫定だ。間もなく根本君と皆吉氏が見えた。初對面の挨拶が終ると池田君より皆んな揃つた處で御願ひするのだがとて事務の分擔表を渡された。記事編纂係は餘りにも大役なので變更を申出でた處變更は困るとの事なので止むなく引受けては見たものゝ、良く此の大役が果されるかどうか?、かくして午前七時三十五分發の吾等千葉縣視察團第四回派遣隊の前衛隊を乘せた列車は目的地に向つてひた走りに走つて行く。

一行が增す車中

友友部驛では宍戸の助役友部氏、關本町の横塚氏が同車する。土浦では山の莊村の勝村氏、佐貫では馴柴の松尾氏が加はる。吾々は未だ會はぬ一行の人々に吾々の存在を知らせる爲統計雜誌を揭げたり或は故意に統計の話をする等仲々の苦心を要した。車外の未だ引き切らぬ水田の水、實らざる稻を見ては水害の慘を思はされる事亦一入である。汽車は途中幾度か復舊工事の爲徐行する。取手驛からは一行中一番年少な

飯村氏、我孫子では飄逸なる兼子氏が加はる。貸切である筈の最後部車輛はどうした事か超滿員、身動きも出來ぬ程だ。柏驛總武ガソリンカーに乘り換へる、一行は初めて席を連ぬる事が出來た。空模樣は益々惡くなりポツリポツリ雨が落ちて來る。洋傘を持參せざる事が悔まれる。千葉着が午前十一時、雨は愈々本降りとなる。

千葉縣廳を視る

バスにて縣廳に向ふ。千葉縣廳で一行に加はる筈の岡郷の山中氏、太田村の萩原氏の姿が見えぬ、吾が唯一の競爭對手千葉の堅陣に乘り込んだのだ。一行は何かしら一種の緊張感に肅然としてゐる。然し乍ら誰もが目にも負けん氣の茨城魂の精彩が認められる、招るゝ儘に吾等は食堂に入つた。間もなく萩原主任屬、野中主事補、協會の丹野氏等が現はれ、縣勢要覽、統計雜誌の贈惠を受け、萩原屬より、今關課長が地方統計官主任會議出席の爲御不在の旨挨拶があり、次いで同氏より千葉縣統計事務概要の說明がある。特に其の事務改善方法に就いての意見は傾聽に値するものがあつた。所詮事務の改良刷新は其の人を得るといふ事である。時間の問題ではない。其の点に付千葉縣が無味乾燥に流れ易き統計事務をして絕えず引緊め、進步改善に努めつゝあるのには敬服させられる。一行は一言も聞き洩らさじと耳聳てる。池田屬が一同を代表し御禮の挨拶を述べ課員一同の心からなる晝食の饗應を受け、屋上より雨に煙る千葉の市街を俯瞰し、記念の撮影をする。縣廳を辭せんとする時山中、萩原の兩氏に會ふ、兩氏共に午前九時頃より待ち居りしと言ふ、此處に於て一行全部勢揃ふ左にその顏觸れを披露すると

引率者	茨城縣屬	池田正雄
東茨城郡磯濱町	書記	河上秀雄
西茨城郡宍戸町	助役	友部勝雄
那珂郡山方村	書記	根本孫次
久慈郡大子町	書記	皆吉贊
行方郡太田村	書記	萩原兵惠
稻敷郡馴柴村	書記	松尾貞三郎
新治郡山ノ莊村	書記	勝村新次郎
眞壁郡關本町	書記	横塚良助
結城郡西豐田村	書記	飯村貞次郎
猿島郡岡郷村	書記	山中森三郎
北相馬郡內守谷村	書記	兼子作治

野中主事補の案內で、蕭々と降りしきる雨を冒し千葉驛に向ふ。一同悲壯なる面持ちだ。統計先進縣千葉の牙城に入り何物をか握らんとするのだ、餘りの緊張の結果は遂に成田町廻り八日市場町行の豫定を直接八日市場行の切符を買つて仕舞つた。

整然たる八日市場

之より吾が一行のプランは變り、前途益々多事なるの感を抱かされる。思ひ見るに明日未曾有の颱風に會ひ、進退谷まり、一小町に一日を立往生しやうとは。成田詣りをせざりしの故かどうかは諸君の御想像におまかせしよう。八日市場着一時三十五分、雨中バスで役場に行く。役場は道路に面し二階建である。間口狹く奧に長い建物である。實は三時半に着く豫定であつたのだ、豫定より早く着いた理由を述べ急な階段を二階會議室に案內される、卓上には整然たる書類の山が積まれてある。吾々は直ちに書類の廻りを取りかこむ、間もなく和服長身の鈴木主任、小柄で精悍なる氣の漲る齋田調査員が現はれ挨拶される、吾々は挨拶もそこ〳〵に書類を拜見し初めた、名にしおふ先進縣千葉、聞きしに優る整備の充實には驚嘆の外はない、吾々の質問に答へる齋田調査員の答辯之なん私の望み得しものはこの熱、この努力なればこそと統計之生命の觀ある齋田老調査員に敬意を表すると同時に調査員をかく迄に指導せし主任の努力に敬服せざるを得ない。小票、集計票、報告表、調査原簿、各種統計、米生產統計に關する書類を見る、特に吾々の注意を引いた事は調査原簿の完備であり、統計事務表彰規程並に統計調査員互助會規程の設定である。私は先に千葉縣廳に於て萩原屬から縣の奬勵方針を聞き、之あるかなと感じ入つたものであるが、各町村にも亦之あるを知り年々優良調査員を表彰しその活動を促し、事故ある者に付ては相援け合ひ報告期限の勵行を期する等の絕えず事務の向上刷新を圖り、每月十日町役場に集合意見の交換、事務の研究を爲す等吾々一行にとつて得る所頗る多く吾等の常に願ふ統計の改善に對し大いなる示唆を得る事が出來た。尙私の特に感じたことは職業別人口動態統計小票の整備である。村落は兎に角、常に人口の異動はげしく職業の千差萬別な町では大いに考へさせられた。特に事變下に於ける各種調査の資料に……此處で奇異な事は調査員手當の一人一日金一圓となつて居る事だ。本縣では大概年手當の事と思ふが然しその良否に就いての感想を私は今此處で述べる事を遠慮する。町長椎名榮藏氏は辯護士で性溫原篤實、特に統計には熱意を持たれ、鈴木主任並に調査員と共に之が使命達成に一意力行されてゐると聞く、かくしてこそ町民の理解と信望が加はり今日統計の模範町として知られてゐるのも、此の町長あり、主任あり、調査員あればこそと感銘しつゝ心からなる茶菓の饗應を受け、數々の御土產物を戴き役場を辭し、雨中再び八日市場驛に引返し鈴木主任の驛迄の見送りを謝しつゝ三時十四分列車の人となる。

鴨川に泊る

豫定の宿泊地東金町行にするか、急驅房州鴨川迄行くかの二案は鴨川行と決定し、大網驛で野中氏と明日を約し別れるまでの二時間餘は野中氏を中心に吾等の質問の連續だ、同氏の明敏なる頭腦は一々吾々を得心させその該博なる智識練達なる事務には吾等一同等しく驚嘆させられた。五時九分大網を發し鴨川に向ふ。豪雨と夜の帳りは素張しいと言ふ車窓の眺めも暗黑の一色に消し眺める事を得ず、吾々は又八日市場を中心に一しきり感想談に花が咲く。何時しか淡い勞れを感じうとうとと睡魔に魅入られ樣とする頃兼子氏の飄逸な警句に一同の爆笑が起る。すつかり馴染み合つた吾々は最早十年の知己の如くだ。縣下統計事務向上に邁進せんとするの熱意は吾々をして斯くの如く凡てを超越し、緊かりと心と心を結び合せる事が出來るのだ。七時九分鴨川驛に着く、ハイヤー二台に分乘、吉田屋旅館に向ふ。雨益々烈しく明日の大山村視察に憂心愈々加はる。旅裝を解き明日快晴なれかしと念じつゝ何時しか夢路を辿る。

暴風豪雨の中を

☆十月二十一日　四時頃ふと眼覺める。濤聲に混はる吼ゆる風雨戸に吹きつける雨の强さに吾々の心は益々暗くなるばかりだ。起ると洋傘の徵發だ。七時三十五分吉田屋を發し小湊に向ふ。雨は益々猛しく、快晴あれば素晴しき眺望も模糊として雨に煙り、遠望もきかず、風愈々烈しいので自動車も轉覆するかと思はるゝばかり。沿道の人家は皆戸を下し、街路上には人影さへ見ず、町はづれの小川には濁流汎濫し轟々流れる樣は物凄きばかり、吾々は只嘆聲を洩すのみだ。然し之が風速二十何米、この附近數十年來の暴風とは知るよしもなく八時十分小湊驛前に着けば野中氏は小湊町統計主任田村兵藏氏と共に迎へて呉れた。誕生寺前で車を捨て、山門を入り本堂に拜す。本山は建治二年の創建に係り、初め高光山日蓮誕生寺と稱し、蓮華ケ淵にあつたが明應元錄の大震海濤のため寺中六坊、人家百數十軒と共に押流されたので、時の住職二十六世大中院日孝上人は水戸光圀公の外護を仰ぎ、寶永年中現在の地を卜して七堂伽藍を再興し、更に山號を小湊山誕生寺と改稱したものだと言ふ。其の後火災に會ひ、現在の壯大なる堂宇は天保三年から十ケ年の長年月を費し完成されたものと聞く。田村氏の案内で小暗き本堂に入り壯嚴なる讀經と共に御本尊の御開張を拜し寶物の拜觀を爲す。吾等の黃門樣との奇緣に驚く。

悲觀又悲觀

吾々は待望の妙ケ浦の見物も出來ず徐ろに今後の行動を議す。鴨川、保田間の道路は崖崩れの爲交通不能となつた事は

【右から】横塚書記・上村書記・村田書記・松尾書記・飯村書記・池田書記・根本書記・原吉書記・萩原書記・部友助役・兼子書記・千葉縣

先刻運轉手から聞いた事なので驛で狀況をさぐり行動を決せんと山門を出れば子安堂山海濤の爲見るも無慘に半壞し僧侶の右往左往避難し居るを見、颱風の猛威に恐怖を感ず。バスで小湊驛に着けば改札口には『安房小湊、大津間土砂崩壞の爲め不通開通の見込不明』の掲示があり、一行が若し八時の汽車に乘つたら如何なつて居つたかを思ひ慄然とした。最早大山行は斷念せざるを得なくなり、而も千葉大網間列車不通の報さへ聞き、此の儘にして居れば進退此處に谷まり如何ともなし得ない事になる虞れがあるので大網驛までの切符を買ひ午前十時四十一分小湊驛を出發した。颱風は益々猛威をたくましくし列車も時に吹き飛ばされ相な狀態で、山形の根本氏等日頃の豪放に似ず憂苦の有樣亦悲痛の極みであり、野中氏も亦悲痛の面持ちである。ふと野中氏は元寇は何年でしたかと言ふ、私は突嗟に弘安四年夏の頃ですかねと答へる、日蓮は統計の先覺者ですよ、弘安二年に日蓮は現在の國勢調査、資源調査を企畫し全國を行脚されたそうです、記錄に依ると當時の數の呼稱は現在と違ふ相ですと言はれる。元の來寇を豫知し、其處に迄頭を働かせて英雄僧日蓮の偉大を再認識すると共に千葉が統計の先進縣として吾等の範となり居る理由も亦鄕土に斯くの如き先覺者があつた故かと思ひは遠く鎌倉時代に走る。

遂に立往生

突然車掌が入り來り『本納、茂原間列車不通になり、此列車は茂原止まりなり』と報ず。一同愕然、午後零時五分茂原驛に着く。『驛前の風景は無慘の極みで、屋根は飛び、樋は轉げ、樹木は倒れる、驛構内には修學旅行と覺しき數十名の兒童が皆おびえ切つた樣子で立ち。吾等の恩人野中氏の活動は益々熾になり、驛に、警察に、役場に、ありと凡る方法で情報の蒐集に活動する。一先づ喜久屋温泉ホテルに入り中食す、時に午後二時、吾等は此の遭難を記念する爲寫眞の撮影をし、各個分擔情報蒐集に連絡に出懸ける、列車は復舊の見込立たず、警察電話は不通、役場前尺餘の浸水、此の附近五十年來の增水、千葉縣下國鐵の不通個所十數ケ所等々凡て悲觀の材料のみである。誰も茨城の災害を心配するが神ならぬ身の知るよしもなく、午後五時大和家旅館に投宿し、明日若し列車が開通しなければ崩壞した峠を越え六里餘の徒歩强行をし一路千葉市に入らうとの悲壯なる決意をし、茨城の災害は如何にとラヂオニュースに耳を傾けたが災害の報は入らず、皇軍廣東入城の報を聞き一同快哉を叫ぶ。

農林省の視察

☆十月二十二日　午前五時二十分野中氏の非常呼集に起され第一列車本納迄開通の報に雀躍す。本納より土氣まで二里餘徒歩すれば土氣より千葉迄は列車があり午前中には農林省に入る事が出來やうと言ふ。然し一寸した手違ひで第一列車に乘り遲れ、暫し呆然としたが、野中氏の交渉でバスに依り七時五分驛前を發し土氣に向ふ。バスは崩壞した峠迄との事だつたが運轉手の決死的强行で遂に土氣驛まで行く事が出來た。之は怪我の功名で吾々は徒歩もせずに遂に入京する事が出來たのだ。途中自動車は尺餘の水中を走り稻田の稻架はすつかり流され、道路は處々決潰し、電柱の倒れたもの數知れず、今更乍ら颱風の被害の甚大なのに驚き話は職掌柄米生産收穫高調査の件に走る。八時二十六分土氣驛を發し、途中千葉で野中氏に別れ十時遂に東京驛に着く事が出來た。今日は土曜日だ、吾等は直ちに農林省に向ふ。統計課員の案内で古びた省内各室を一巡し課長室に入る、課長は慈父の如き温顏を絶えずニコ〳〵させ、茨城の統計は全体的優良だと御譽めに預る。今春視察途上本縣鹿島郡下二ケ村を視察した感想談や、千葉、富山視察感想を述べ、町村首腦部主任、調査員の氣分のしつくりしてゐる所は何處も優良だと云ひ、災害報告に關し上奏の手續上急を要するものだから報告期限が短時日で無理かも知れないが宜敷く願ふ等打解けた話があり、長畑統計官や、講習會で顏馴染みの二三氏が現れホットレモンの饗應を受け、直ちに内閣統計局に向ふ。此處には地方統計官主任會議場の立札があり、吾等の課長も出席中との事だ。局員の案内で人口動休靜体調査、生計指數、家計調査等短時間の内に腦裏深く銘記される懇切な說明を聞き、人間業かと驚かされる若き女性の熟練業に驚異の眼を見張りつゝ辭し應接室で吾等の川崎統計課長に會ひ、水害遭難實況報告、大山村を視察しなかつた理由を說明し、再び自動車で九段に向ひ、靖國神社に參拜し、雨中護國の英靈に對し敬意を表し、坂下に中食を共にし、池田屬より解散の挨拶あり、斯くして吾等は第四回統計事務視察を終つたのである。思へば多事なりし三日間よ、吾等は千葉縣統計主事補野中勘助氏の至れり盡せりの斡旋に感謝すると共に池田屬の御心勞に對し深く感謝の意を表し擱筆するものである。

（東茨城郡磯濱町統計主任河上秀雄記）

▽統計調査員異動

（上は新任、括弧内は舊）

昭和十三年九月三日久慈郡機初村　金川　精一（大穩　浩）
仝　九月十日　東茨城郡小松村　高田直之介（仲田三之介）
仝　八月三十日　行方郡津知村　岩本　運壽（岩本　登）
仝　八月三十一日　多賀郡河原子町　鈴木　英（鈴木　茂）
仝　九月十二日　筑波郡小張村　深作　濱吉（寺田　俊雄）
仝　九月十一日　那珂郡野口村　長山　鑛樹（諸澤　清嗣）
仝　九月二十四日　藤田瀧之介
仝　九月三十日　齋藤　勳（齋藤　酉松）
仝　九月二十八日　平山　金藏
仝　十月十二日　野口伊之助
仝　十月九日　須藤長二郎
仝　十月三日　上竹源一郎
仝　十月四日　鈴木新太郎
仝　十月十八日　那珂郡大宮町（堤　竹松）
久慈郡生瀨村（齋藤　酉松）
行方郡大和村（海老澤武男）
新治郡玉川村（野口角之助）
結城郡中結城村（小森祐右衞門）
結城郡名崎村（倉本延一郎）
北相馬郡大野村（野口　鈑市）
西茨城郡東郡珂村
增淵　和平（米　統　計）
岩本　盛（〃　〃）
磯　明男（〃　〃）
瀧田稻太郎（〃　〃）
仝　九月二十六日　西茨城郡北川根村
柴田　貢（前澤　開）
仝　九月十七日　西茨城郡大原村
鬼澤源兵衞（東　勇一）
仝　九月二十三日　西茨城郡七會村
森田　玄番（森田　勝雄）
山口　輝美（山口音右衞門）
大座畑東一（大森　旭）
仝　九月十六日　東茨城郡大貫町
米川鐵次郎（寺門　德重）

各地統計雜信

猿島郡南部統計事務研究會

猿島郡南部統計事務研究會は十月二十日神大實村役場に於て開催、縣より山中主事補が出席した、午前十時中村神大實村收入役の開辭に次いで山中主事補仝郡擔任挨拶の後直に會議事項に基き特に米生產統計調査に付詳細說明を爲し續いて南部統計事務研究會よりの提出事項を研究協議を遂げた、尙出席者左の如し。

（七郷村）南政治（中川村）野口新吉（長須村）後藤關平（岩井町）富山正司（七重村）花島常次郎（沓掛村）立入玖十郎（弓馬田村）小林忠三郎（飯島村）岡田彌一郎（神大實村）羽富好

行方郡津知村統計調査員會並映畫會

行方郡津知村統計調査員會は去る十月二十二日津知村役場樓上に開催された、午后三時半榊原村長の挨拶あり、續いて九月一日現在に依り施行された農家調査に對する記念品傳達式を擧行終つて高畠屬より統計の重要性と調査員の努力を要望し續いて米生產統計並に農林統計報告規則取扱細則に就き說明した、尙引續き午後七時より統計思想映畫會を開催、米になる迄を初め十數卷映寫し中途統計に關する講演をなし、觀覽人員八百名に達する盛會だつた。

筑波郡三島村統計調査員會並映畫會

筑波郡三島村統計調査員會は去る十月二十八日三島村役場に於て開催された、午後二時保科村長の挨拶あり續て縣より出席の菊池屬より挨拶ありて米生產統計並農林統計報告規則取扱細則に依り說明があつた。尙引續き午后七時より統計思想普及映畫會を開催映畫は米になるまで初め十卷を映寫し中途統計に關する講演あり觀覽人員七百名に達する盛會だつた。

多賀郡南部統計事務研究會

去る十月二十四日多賀郡黑前村役場に於て開催、縣より郡擔任虎口屬出席の上左記事項に就き研究協議を遂げた

（1）米生產統計調査の件　（2）其の他調査の件

當日の出席主任者次の如し

縣村會長、椎名櫛形村書記、吉田豐浦町書記、黑澤河原子町助役、鈴木助川町書記日祭日立町書記、根本日高村書記、長山國分村書記、根本黑前村書記、久下田鮎川村書記

群馬縣統計事務視察團來縣

十月二十六日群馬縣より縣內優良町村を選んだ二十名の統計主任が縣係官三名に引率され大形バスで午后一時來水した、一行の氏名左の如し。

群馬縣屬大澤彥太郎、同富岡恒治郎、同統計主事補狩野登美次、勢多郡下川淵村書記關兵八、同北橘村書記塚越龜太郎、同桂萱村書記關菊次郎、群馬郡瀧川村書記小林英一、同金島村書記高橋柳太郎、多野郡藤岡町書記柴田太兵、同新町書記野村勇太郎、北甘樂郡高田村助役渡邊寅吉同額部村書記高橋義一、碓氷郡西横野村書記新井直吉、吾妻郡長野原町書記轟提三、同嬬戀村書記熊川市郎、利根郡白澤村書記新井峰吉、同古馬牧村助役佐藤元三、佐波郡豊受村書記都丸半五郎、新田郡寶泉村書記大竹昌一、邑樂郡大島村書記福富四郎治、同千江田村書記高瀨茂郎同長柄村書記齋藤友二、同中野村助役大塚國太郎

直に縣參事會室で川崎本縣統計課長の挨拶並に調査の大要に付て說明あり、高畠屬の案內で午后二時久慈郡賀美村に車を飛した。途中水害の爲徒步連絡を余儀なくされた個所もあつたが大體順調に秋の收穫に、播種に忙しく働く農夫を見送りつゝ午前三時二十分賀美村役場に到着、直に樓上に案內されたテーブル上には處狹しと積まれた貴重な書類を見ながら佐川村長の挨拶、助川統計主任の說明を聞き四時五十分辭去、又もや車中の人となり大洗に至り大洗ホテルに投宿した。翌朝海岸を散步後國幣中社大洗磯前神社に參拜、常陽明治記念館を拜觀後、鹿島郡諏訪村に午前十一時半到着、米川村長の挨拶ありたる後酒井助役より詳細な統計事務の說明あり一時間餘視察の後白砂青松を左手に眺めつゝ海岸線を一路鹿島町官幣大社鹿島神宮社前に着、武運長久と國威宣揚を祈願、小憩して水郷潮來に到着モーター汽船で名勝を探り宿泊、翌日バスは一路東京に向つた。

第二回人口問題全國協議會

財團法人人口問題研究會に於ては去る十月二十八、二十九日の兩日東京市神田區一橋講堂及び如水會館に於て左記計畫概要に基いて協議會を開催した。

一、趣旨　時局の進展に伴ひ人口問題の重大性の新に加はりつゝあるに鑑み衆智を聚めて國策の根蔕に培ひ以て本問題の解決に資する爲第二回人口問題全國協議會を開催す。

二、研究報告　左の如く五部門に分ち二日間に亘りて研究報告會を開催す

▲第一部　人口問題に關する一般的研究

▲第二部　民族政策に關する問題

▲第三部　人口と經濟構造の變化に關する問題

▲第四部　事變の國民生活に及ぼす影響に關する問題

▲第五部　人的資源涵養に關する問題

三、協議事項　（イ）政府諮問事項、（ロ）參會者提出諸建議案

四、參會者懇談會

讀者欄

農産物生産計畫

鹿島郡白鳥村　飯岡對馬

農林省は農産物資源確保、增産のため計畫生産を實施することに決定し、來年度新規要求として二千五百萬圓の豫算を計上することゝなつたと云ふ。其の實施に當つては農業統制委員會を組織し、之を中央並に各道府縣町村單位に設置し諮問するばかりでなく、計畫生産の執行機關として直接の活動擴張を與へらるゝことゝなつて居る。

◇

由來我國は農業國であり、しかも農産物の多くは食糧品である關係から、工業部門において生産擴充に全力を注ぎ農業部門に於て生産增産計畫は比較的閑却されてあつたが應召による勞働者の減少に加へて、軍需工業への轉出、更に又軍馬等の徵用により、いよ〳〵生産力の減少を招來する情勢が明瞭となつたので、政府は其の勞働力の低下を防ぐため勤勞奉仕班を設置して出征農家の勞働不足を補ひ、其の經營上支障なからしめる樣な對策に出で、其他實行組合等に各種改良農具の設備を行はしめ、單位勞働の生産力を增進せしむる等の諸方策を執つたのである。

◇

勿論これ等諸對策は或程度の効果を期待することは出來るが、其の諸計畫は主として精神的、義務的のものであつて、眞の經濟的方策の上に樹立した對策でないために、應急的彌縫的對策たるに止り、恒久的に確乎たる計畫たるを得ないのである、のみならず之等の對策は唯單に現在の生産力を維持するに過ぎない消極政策に外ならぬのである。然るにいま我國の急迫せる戰時對策を確立せねばならぬ重大時局に際會して、ゐるのであつて、農産物に對しても、唯單に從來の如く生産力維持のみを滿足してゐることを許さないのである。一面軍需としての食糧その他被服等に對しては充分確保するとともに、他面輸出農産物の增殖に邁進して國際收支の改善に努むるところがなければならず、こゝに我農業政策は重大なる轉換期に際會したのである。從來の農業政策はただ價格對策の範圍を出でなかつたのである。今後の生産力の擴充、農産物の增産が農業對策の辿るべき唯一の進露でなければならぬ。

◇

農林省が今回決定した計畫生産は時宜に適したものであつて、之によつて主要食糧としての米麥類は燃料用として甘藷、馬鈴薯を初めとして、輸出品として茶、除虫菊、球根類、菜種、柑橘類の增産を計らんとするものである。然しながらこれ等增産計畫を行はんとすればこれに伴ふ困難は肥料問類であつて、硫安、過燐酸等何れも海外の供給にまたねばならぬ。我國は農業國であるとはいへ、たゞ我國の土壤に生産すると云ふ意味に過ぎない實情にあつて、肥料は殆んど外國に仰がねばならぬといふ窮狀にあるとすれば其の供給に就ては萬全の策を要すべく、これ等は商工省との關係もあり、兩省は該問題については從來兎角圓滑を缺いたのであるがこの時局に際してはこれ等弊風を肅正して圓滿に對處するところがなければならぬ。

尙またこれ等肥料の配給は最も考慮すべき問題であつて襲に臨時肥料配給統制法の制定を見、次で硫安增産配給統制法の公布となつたが、これは特殊會社をして配給權を統制せしめんとするものであるが、これのみにては到底充分なる効果を擧げ得ざるべく、他の既存の地方機關を利用するなど其の組織化によつてこれが徹底を期する覺悟が必要であると思ふのである。

出入人口現在戸數調査

毎年十月一日現在を以て調査してゐる市町村現住人口及戸數調に關しては郡內町村よりの入寄留者を相互通報すると共に縣內他郡市他府縣等の出入寄留者を嚴密に調査する樣、尙左記日時場所に於て內容檢査の上取纏めるので日割當日は必ず主任者をして左記書類携帶出席する樣縣から通牒を發した。

▲當日携帶すべき書類(イ)昭和十二年十三年人口動態調査小票目錄寄留簿(ロ)昭和十二年分人口靜態統計報告書控(ハ)昭和十二年十三年の戸籍受付を知る書類(ニ)本年度分各町村より入寄留者通報書控

▲日割及場所(時間は何れも午前九時)△東茨城郡十一月十四日茨城縣廳　△西茨城郡十一月十五日茨城縣廳　△那珂郡十一月十六日茨城縣廳　△久慈郡十一月十七日茨城縣廳　△多賀郡十一月十八日茨城縣廳　△鹿島郡十一月十九日鉾田町役場　△行方郡十一月十九日麻生町役場　△稻敷郡十一月十九日蠶業取締所江戸崎支所　△新治郡十一月二十一日土浦等常高等小學校　△筑波郡十一月二十一日筑波郡自治會館　△眞壁郡十一月二十一日下館稅務出張所　△結城郡十一月二十二日結城郡自治會館　△猿島郡十一月二十二日古河町役場　△北相馬郡十一月二十二日北相馬郡元自治會館

短歌

丹四郎選

『秋雜詠』『月』

（賞）

行方郡武田村　鳥次ゆた香

七反歩皆無田出來し我家の今年の生活思ふは暗し

まことこれ神の試練とひたむきに心引しめ畑打つ我は

皆無田の戸毎にありてこの里の收穫さぶしく秋行かんとす

行方郡武田村　小貫九區男

AKのマイクロホンに吾が友は燃料甘藷の栽培を說く

稻束に腰してしばし讀み耽けぬ第一線の友の軍事郵便を

行方郡武田村　塙草風

部落人等曉寒き霜畑に奉仕作業の麥蒔をせり

戰線の夫の笑顏は偲びつゝ男の子の生れし便り書き居り

行方郡大[illegible]村　內田六統生

颱風に裂けて仆れし沙羅の木の匂ひかぎつゝ惜しく思へり

稻を刈る鎌を休めて郵便夫より軍事郵便母は受けとる

北相馬郡東文間村　堀越正直

秋雨のふり續きける昨日けふ納屋ごもりして莚織りせり

しと〳〵と八ツ手にあたる雨の音を床に聞き居り秋の夜更けに

あきらめの心淋しくけふもまたつめたき空田牛耕じにけり

那珂郡中野村　小林きよし

ふたたびの出水にあひし稻の穗はけふこの頃に實をむすびたる

水戸市袴塚町　大高靜香

秋も早野菊の蕾目に見えてふくらみにけり雨に濡れつつ

鹿島郡中野村　高田靖

葉の落ちて實のみ殘れる柿の梢に午の白雲かかりて行きぬ

筑波郡旭村　廣瀨實

我が庭を照せる月は戰線のかりねの友の顏もてらさむ

稻敷郡岡田村　諸岡竹山

出征の勇士に知らす里便り米も甘藷も山と積まれぬ

鹿島郡沼前村　川澄春暢

數々戰功をたてし凱旋の友を迎へむこころ躍るも

多賀郡黑前村　根本耕晨

うなひたる畑の面に音もなく桐の一葉は落ち來りけり

追擊の秋　四郎

菊の花咲きを競へる秋にしてわがみ軍は進みに進む

秋の野の露の如くも支那軍を踏み散らしつゝ皇軍進む

照り渡る月の下びの追擊は怒濤の如もゆゝしからまし

次回課題　『冬雜詠』『新春雜詠』

十首以內

締切　十二月末日

宛名　茨城縣廳內統計協會

俳句

前田猶春選

『秋季雜詠』

○　鹿島郡大谷村　山口俊

坪刈の終り樂しき秋日かな

○　北相馬郡東文間村　堀越宵雪

繭賣つて掃除終りし廣さかな

○　新治郡高濱町　木村筑峰

愛國歌はるかに遠し芒原

○　筑波郡久賀村　幸田芳春

雪かつぐ富士仰ぎけり今朝の秋

○　稲敷郡君原村　小松澤　霞翠
夜仕事の終れば雁の渡るなり

○　鹿島郡豊郷村　石津調六朗
旭は露にネオンの如し草紅葉

○　東茨城郡石崎村　櫻井星光
洪水あとは荒れしまゝなり秋の暮

○　行方郡武田村　小貫九區男
戰捷の旗行列や菊日和

○　稲敷郡岡田村　諸岡寒月
新月や軒端につみし芋俵

○　鹿島郡中野村　高田霞香
枯草に實のあり風に鳴りにけり

○　水戸市下金町　茂垣幡春
招がれて傷兵來たり菊花壇

○　鹿島郡沼前村　川澄春暢
麥蒔きの終りたる畑夕燒す

○　久慈郡小里村　磯野市夫
出征の兵に秋晴の旗の波

○　行方郡延方村　黒須一雅
神苑の眞畫靜かや菊盛り

○　水戸市袴塚町　大高靜香
秋晴や雲ちぎれ飛ぶ富士の山

○　北相馬郡文間村　大野松雨
砧うつ老も銃後のまもりかな

○　北相馬郡高野村　倉持公太郎
朝靄の山幽かなる野菊かな

○　稲敷郡君原村　小松澤霞翠
百舌鳥の聲澄む朝空に徹るなり

○　猿島郡逆井山村　青木白流
秋晴の日の丸高くあふぎけり

○　行方郡武田村　鳥次ゆた香
驛の灯に歡聲あがる夜長かな

○　同　塙草風
架稲のかくはしき陽に路つゝく

○　同　大和村　内田六統生
吊橋を杣と渡るや夕紅葉

秀逸

○(賞)　行方郡武田村　小貫九區男
草の實のつく股引を脱きにけり
戰勝のニュース聽きつゝ夜業哉

選者吟　猶春

○無言の凱旋を迎へて
眼に痛きほどの秋日に合掌す

○祝六統生君長男出征
日の丸をあふぐ秋晴れの一家族

次回課題『新春・冬雜詠』

一人十句限り　◇締切昭和十四年一月十日嚴守

柳川

山中緋郎選

『雜詠』

鼻唄の機嫌で戻るいゝ月夜　水戸市　大高靜香

街の灯の見えて夜船の早くなり　行方郡大和村　内田六統生

冬物の賣出し近く娘はねだり　北相馬郡東文間村　宵雪迂人

草刈の歸り栗取る子の土産　稲敷郡岡田村　諸岡竹川

捨て猫の納屋に來てゐる秋の雨　筑波郡旭村　廣瀨實

母心歸省へ芋をたんまり煮　行方郡武田村　塙草風

陷落を祝ふ裏にもある涙　鹿島郡沼前村　川澄春暢

日の丸を見ると支那兵逃げたがり　鹿島郡豊郷村　石津調六

勝栗に嬉しさがある慰問品　行方郡大和村　横山五郎

子を君に捧げて納屋に莚織る　新治郡高濱町　木村筑峰

殿りは休む間もないハイキング　水戸市　本郷統計子

次號課題『雜詠』

締切　十二月末日
宛名　茨城縣廳内統計協會

茨城統計と廣告の効果

『茨城統計』は縣下三百七十八ケ市町村及び各市町村の統計調査員約四千名は勿論縣下各種團体、會社工場等に配付し、中央各省、道府縣へも漏れなく配付するものにて廣告の効果偉大なるものがあると信じます。

◇本誌の廣告料金は左の通りです

特別（一頁（表紙表裏）金拾五圓／半頁（同）金八圓）

普通（一頁金八圓／半頁金四圓／四分ノ一金貳圓）

▼同一廣告を引續き二回以上のときは一割五分、五回以上のときは二割の割引をします。

▼廣告に寫眞挿入又は木版を要するものは其の費用を別に申受けます

▼廣告料は前納に願ひます。

茨城縣廳内

茨城縣統計協會

編輯後記

×

あゝもしやう、斯うもしやうと思つてゐる中に、今年もとう〳〵終刊號を出す時が來た。今更ら乍ら月日のたつのは早いものだと考へさせられる。一年を顧みて、自らの足らざるを思ひ慚愧に堪へない。

×

今月號は米の豫想收穫高發表や、縣下統計主任諸君の縣外視察旅行記や、幸島村統計調査員員の座談會や、重要な記事、有益な讀物が豊富に掲げられたのは嬉しい。だが紙面の都合其他で優良町村の紹介が出來なかつたのは遺憾である。優良町村訪問記は來春號から筆硯を新にして續ける心算である。

×

戰時態勢で、而かも再度の水害を蒙つた今年の樣な厄年はあるまい。併し異郷に奮戰する將兵が廣東を屠り、武漢三鎭を陷れて威武を中外に宣揚した感激を思ひ、銃後にある各位が、之等の災厄を克服しつゝある事實を見れば、欣快之に過ぐるものはない。

×

兎に角讀者各位には多幸な新春を迎へられん事を祈り、潑溂たる意氣と撓まざる努力によつて統計報國の實を擧げられん事を望んで年末の御挨拶としたい。記者も職尾に附して來年こそはと念願してゐる。

—加藤敬愛—

昭和十三年十一月十三日印刷
昭和十三年十一月十五日發行
（隔月一回十五日發行）
一部金十錢

水戸市北三ノ丸茨城縣廳
茨城縣統計協會內
發行兼編輯人　川崎末吉

水戸市南三ノ丸一〇七ノ二
印刷人　柴博

水戸市南三ノ丸一〇七ノ二
印刷所　柴印刷所

水戸市北三ノ丸　茨城縣廳內
發行所　茨城縣統計協會